

127 三浦哲郎の短篇小説 ～彼の文体の魅力をめぐって～

三浦哲郎は日本文学の最後の私小説家といわれ、短篇小説の名手としても知られています。その作品はリズムを静謐に湛えた文体で語られており、感性のしなやかさが作品によくあらわれています。三浦の作品を読むと、優しい気持ちになって、心が温められます。年に1回、皆さんと一緒に新しい作品を講読できるのが楽しみです。

【日時】 9/21(土) 14:00～15:30

【講師】 吉田 卓 (本学特任教授)



受講料 一般：1,900円 本学学生・卒業生：1,600円 定員：20名

申込締切：9/4(水)

